

子育て支援プログラム「あそびの森」実践報告〈9〉

－平成24年度実施プログラム－

若杉雅夫・松尾良克・伊藤功子・三羽佐和子・長谷部和子・篠田美里
杉山喜美恵・古里貴士・田中ヒロ江^{*}・大西信行^{*}・高山育子^{*}・杉山 章^{*}

実践の概要

今回で9回目となる子育て支援プログラム「あそびの森」の実践活動は、『地域の親子・学生・教員が協働でプログラムを実践し、育つ』という開設時の目標を受け継ぎ、地域のニーズを把握しつつ、反省を積み重ねて行ってきた。

今回は四大も積極的に参加されて3プログラムを実施し、計12のプログラムを行った。参加者も、「出張あそびの森」（今回実践記録には載せていない）を加えると2700名ほどで、プログラム数・参加者数ともに過去最高となった。四大が3回参加することで、プログラムに新しい分野が開かれたり、学生の参加が多く、子どもたちへ厚い援助が出来たりと、「あそびの森」としては発展的な様子を見せた。

短大と四大の枠を取り払い、お互いが同じ土俵に乗ることで双方が切磋琢磨することができ、互いの成長に繋がった。

「あそびの森」は学生の育ちからみても、子どもたちが楽しく過ごせるように、仲間と共にプログラム内容を考えたり、活動を予測したり、役割分担・環境等を考える等、実習では得られない経験が得られる。また、保護者とどう向き合ったらよいか、保護者の自分の子どもに対する思いを感じられる等、貴重な体験ができ、保育者として総合的なスキルを培う意味で、良い経験を養う場所となっている。

「あそびの森」を保育ゼミナールの授業で行うことで、1・2年生が互いの良さを知り合ったり、1年生が2年生を学ぶ場となったり、2年生が1年生を指導したりする等、学生同士の育ちに繋がることも忘れてはならない。

今後とも、「あそびの森」の実践が、幼児教育を学ぶ学生たちのより良い成長に結び付けられるよう努力したいと考えている。

平成24年度あそびの森プログラム

<月例プログラム>

- ① スライムなどで感触遊びを楽しもう
5月26日 三羽 佐和子
- ② 子…つくって遊ぼう
親…子育て懇話会
6月16日 大西 信行・田中 ヒロ江
高山 育子
- ③ 私だけのアンブレラ
7月7日 若杉 雅夫
- ④ お気に入りの一冊を見つけよう！
7月21日 杉山 喜美恵
- ⑤ こどもおんがくかい
8月18日 篠田 美里
- ⑥ うんどうかいごっこ
10月17日 篠田 美里
- ⑦ お話の世界を楽しもう
10月20日 三羽 佐和子
- ⑧ 自然物で遊ぼう
11月10日 田中 ヒロ江
- ⑨ 子…毛糸を使ってフルーツストラップ作り
親…子育て懇話会
12月1日 長谷部 和子
- ⑩ クリスマス会
12月15日 古里 貴士
- ⑪ 粘土遊びでクッキー作り
1月19日 若杉 雅夫
- ⑫ からだを使って遊ぼう
2月9日 田中 ヒロ江

^{*}東海学院大学

1. 活動報告

活動名①「スライム等で感触遊びを楽しもう」

実施日・会場

平成24年5月26日(土) 保育実習室
AM 10:00～11:45 PM 13:30～15:15

ねらい

- ・グループごとに相談して、楽しめそうな手遊び・体操・絵本などを選び、子どもたちが喜んで参加できるように工夫する。
- ・スライム・小麦粉粘土の遊び方を知り、ねらいや子どもたちと共に楽しめる方法を考え実践する。

担当 三羽 佐和子

参加人数 (子ども91名/保護者56名)

参加スタッフ 教員6名 学生22名

<内容>

- ・スライムや小麦粉粘土で遊ぶ。

<遊びや学生の様子・考察等>

- ・ 昨年の「あそびの森」での経験は先輩である2年生が主体であった。今回は自分たちだけで計画から実行まで行う立場になり、緊張している様子が見られた。しかし、遊びが進むにつれて、緊張感が少しずつとけていく様子が見られた。
- ・ スライムを作るとき、ヌルッとした感じから、ゲル状に大きく変化するところで、子どもたちは歓声をあげ、学生たちも子どもの様子を見ながら一緒に興奮していた。子どもと共感する場の体験ができた。
- ・ 絵本読みや手遊びや体操、遊びの説明などは、2～3人のグループを組んで、互いに助け合っている姿が見られた。
- ・ 最初の自由に遊ぶ時、学生は子どもを無理に自分の方へ引っ張って遊ぶのではなく、子どもの思いを受け入れて遊ぼうとしていた。2回の実習で自信をつけ、子どもと気軽に接することができるようになった結果であると思う。
- ・ スライムや小麦粉粘土遊びは比較的スムーズに流れた。何度も学生と打ち合わせやリハーサルを行ったこと、準備をしっかりとった結果だと思う。特にリハーサルの時間を十分にとったことで余裕ができ、それが学生の自信となったようだ。

・手遊び・本読みは、リハーサルで練習した以上のできばえであった。やはり、子どもたちの反応があり、やりやすいことと、意気込みの違いであろう。学生の自信に繋がったと感じる。

活動名②「つくってあそぼう」(子育て懇話会)

実施日・会場

平成24年6月16日(土) 保育実習室
AM 10:00～11:45 PM 13:30～15:15

ねらい

- ・親子と共に作ることを楽しむ。
- ・安全で楽しく遊べるように、一人一人の子どもや保護者と触れ合いながら援助する。

担当 大西 信行・田中 ヒロ江
高山 育子

参加人数 (子ども74名/保護者46名)

参加スタッフ 教員6名 学生22名

<遊びや学生の様子・考察等>

- ・今回は学生にとって2回目の企画・運営ということになるため、教員はできるだけ口出しをしないで見守ることにした。
- ・学生は、何をするのか決めるところから積極的に話し合い、準備の段階では、活動毎にリーダーを決め、その都度進捗状況を報告し合いながら、みんなからの意見も取り入れて作り上げていくことができた。そのため、当日もそれぞれの担当コーナーを責任を持って進めることができた。
- ・活動では、作ることに興味をもって何個でも作っている子や、作るより遊びたい子がいることを考えて、場の設定をしていたため、どの子も楽しめていたように思う。
- ・しかし、年齢の差もあり、どこに絵を描くのか分からない子がいたり、作ったロケットの飛ばし方が難しかったり、思わぬ姿に対応仕切れないところもあったと思う。
- ・その他では、懇話会へ行く親と離れられなくて泣いてしまう子に戸惑ったが、無理に引き離さなくても良いということを知った。
- ・ペープサートや、体操、手遊びなども、1回目に比べるとみんなの前ですることによって自信もできて、笑顔で楽しくできたと思う。
- ・反省としては、担当の活動に夢中になって、

なかなか他の活動まで協力し合うことができなかった。子どもに分かりやすい言葉のかけ方が難しかった。などがあげられ、課題は尽きないが、実際に親や子どもの前で実践することで、学生自身が実感を通して学ぶことは、力になり学生が育つと感じた。

活動名③「私だけのアンブレラ」

実施日・会場

平成 24 年 7 月 7 日(土) 保育実習室
AM 10:00 ~ 11:45 PM 13:30 ~ 15:15

ねらい

- ・オリジナルの傘作りを楽しむ。
- ・雨を楽しむ気持ちを培う。
- ・親と子が共に製作を楽しむ。

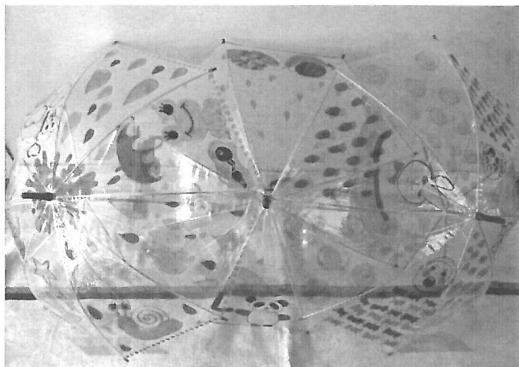
担当 若杉 雅夫

参加人数 (子ども 76 名/保護者 49 名)

参加スタッフ 教員 5 名 学生 23 名

<遊びや学生の様子・考察等>

- ・最初に今日の活動について学生がデモンストレーションで伝え、前もって製作した各自のオリジナル傘を参加者に見せた(傘を開いて全員前に並ぶ)。
- ・活動は学生一人(原則)が二家族を担当し、先ず、傘の内側に描くことと、顔に当たらないようにゆっくり開くように説明した。次に、楽しく傘に絵が描けるように子どもに言葉掛けをした。なかなか描けない子どもには三角や波線、丸など模様を描いてもいいと励まし、すぐできたという子どもには、もっと一杯お友達を描いたほうが楽しくなるよ、などと言葉掛けをし



オリジナル傘の花

た。保護者にも一緒に描くように話しかけ、和気藹々とした雰囲気の中、手作りオリジナル傘の花が「あそびの森」の部屋一杯に咲き乱れた。

- ・完成した傘は、みんなの前に出て一人ひとり披露し、学生や参加者がその傘を拍手喝采した。その後、全員で傘を開いて集合写真、まるで雨の日のアジサイのようにみずみずしくて綺麗だった。

最後は、傘を大切に使うように話し(庭やベランダに飾るのもいい等)、雨の歌を歌いながらお別れをした。

活動名④「お気に入りの一冊をみつけよう」

実施日・会場

平成 24 年 7 月 21 日(土) 保育実習室
AM 10:00 ~ 11:45 PM 13:30 ~ 15:15

ねらい

- ・絵本に親しみ、絵本の楽しさを知る。

担当 杉山 喜美恵

参加人数 (子ども 83 名/保護者 56 名)

参加スタッフ 教員 6 名 学生 13 名

<遊びや学生の様子・考察等>

- ・日ごろから家庭でも絵本に親んでもらえるよう、保護者に読み聞かせの大切さや選書について伝える機会がほしいと常々考えていた。そこで、今年度は後期にも絵本をテーマにした活動が実施されるので前期はあえて保



学生が作ったアクセサリ

護者に対し、読み聞かせや選書について話をする時間をとることを試みた。

その間、子どもたちは学生とともにおみせやさんごっこを楽しめるよう計画した。その導入として大型絵本『からすのパンやさん』を読んだ。また、絵本だけでなく、手あそび、大型紙芝居やエプロンシアターも取り入れ、お話会の形式にし、親子でお話会を楽しんだ後、親子分離を行い、保護者には保育実習室の後部に集まって話を聞いていただき、子どもたちにはスイーツ、アクセサリ、ファッションショップ、花屋の

コーナーを準備し、好きなお店で製作を楽しめるよう計画した。

・今回参加した学生は、2年生のみであったが、昨年度、何回か「あそびの森」や地域子育て支援イベントに参加しているため、子どもに対するかかわりや絵本や紙芝居等を読んだり、前に立ってイベントを進めていく力がついてきたと感じた。

その後、希望者を「えほんの森」に案内したが、多くの方が「えほんの森」に行き、親子で絵本を楽しんだ。

・おみせやさんごっこは多くの幼稚園や保育園で取り入れられているごっこ遊びである。学生たちも準備段階からいろいろなサンプルを自分たちで考えながら製作し、当日に備えたが、そのような経験は保育者となった時に役に立つのではないかと感じた。

活動名②⑨「子育て懇話会」

実施日 6月16日・12月1日

ねらい

- ・同年代の子どもを持つ保護者が集まり、子育てについて話し合い、自分の育児の参考とする。
- ・子育ての喜び、楽しみ、悩み等を、共通理解できる仲間と語ることで、気持ちを発散し、子育てを楽しむ醸成づくりをする。

ハシリテーター

高橋明子 渡里禎子 白井純子 中村秀子
神谷かつ江 田中ヒロ江 三羽佐和子

内容

数人ずつのグループに一人のハシリテーター(心理専門の先生、元幼稚園長、本学の教員)が入り、進行役を務め、話をまとめた。

<話し合いの記録2回分のまとめ>

●トイレトレーニングについて

一人の母親から、テレビを見て行った方法で成功した話が聞かされ、参加者は関心を持って聞いていた。

(生後8カ月からおむつを取ってパンツにして、トイレにこまめに連れていく。「おまる」を使う場合は、だんだんトイレに近付けて行き、最後はトイレの中で「おまる」でさせる。1歳3カ月にはおむつが取れた。)

・3歳になってもおむつの取れていない子どもが多い。

・幼稚園に行ったらプロの先生がとってくれるのではないかという友だちの話にちょっぴり呆れた。

・成功したときにはおむつ代20円儲かった気分になる。

●父親の子育て参加(役割)について

・帰りが遅いのでなかなか遊んでくれない。

・ほとんどみてくれないので怒れてしまうし、休日には実家へ連れて行き、自分は見ないで親に見させている。

・早く帰ってきたときには、お風呂に入れたりご飯を食べさせたりしてくれる。

(みんなからの意見)

遠慮しないで、母親の方から子どもを連れて父親の方へ行ってはどうか。

●子どもと言葉

・母親の言葉をそのまま真似るので怖いくらいである。

・子どもの話を聞いてやることも大切だと思う。

●虐待について

・父親が帰ってこなかったり、おむつが取れなかったりしてつい大声で怒ったり、叩いたりしてしまう。子どもは体を押さえて「ママが叩いた」という。

このような場に来て話せることが大切で、話せるからまだ大丈夫、誰でもよいから「ママ友」をつくってストレスを発散するとよい、というアドバイスがあった。

活動名⑤「子どもおんがくかい」

実施日・会場

平成24年8月18日(土) 短大131教室

AM 10:00 ~ 11:45

ねらい

・本物の楽器の演奏を聴き、楽器のもつ音の美しさを味わう。

・知っている歌を皆で一緒に歌う楽しさを味わう。

担当 篠田 美里

参加人数 (子ども110名/保護者70名)

参加スタッフ 教員7名 学生18名

<遊びや学生の様子・考察等>

・学生が演奏できる楽器を使って未就学児対象とした演奏会を行った。幼児にも大人と同じようにコンサートを体験してもらおうと企画したものである。まず学生がそれぞれ自分が演奏できる楽器を持ち寄りそれを活かした曲を選曲した。ゼミ生は女子ばかりなので高音域の楽器が多かったがピアノやマリimbaを使って低音域を補った。

・普段の子どもが積極的に動く活動と違い、聴くという、ともすると窮屈な思いをする活動なのでプログラム設定を考えた。

・子どもにとって「観ること・聴くこと」の活動を楽しむには？-について考え、学ぶチャンスと学生は苦慮しながらも其々の実習体験などを考え設定していった。そして下記のような聴く・観る・歌う・掛け声・踊る等の活動を取り入れたプログラムとなった。

・参加人数が総勢 200 名収容できることとピアノがある場所という限定があったため、開催場所が大学の教室となった。ここは学生仕様の固定机と椅子のため子どもには不安定な場所である。その事は保護者をお願いすることとした。子ども対象のコンサートであったが保護者も楽しんでいただけた。音楽の持つ力と本物の楽器の魅力は子ども達を引きつける大きな力になることを再確認した。

<プログラム>

・あいさつ・手遊び・うたいましよう・パネルシアター・いろんな楽器でこぎつね変奏曲（お話と背景付き）・みんなで体操・マリimbaアンサンブル（語りつき）・絵本・さようなら

活動名⑥「うんどうかいごっこ」

実施日・会場

平成 24 年 10 月 6 日(土) 短大体育館
AM 10:00 ~ 11:45 PM 13:30 ~ 15:15

ねらい

- ・広い体育館で思いっきり身体を動かし、気持ちを開放する。
- ・親子のスキンシップを語りながら楽しく身体を動かす。
- ・体を動かす遊びのおもしろさを体験する。

担 当 篠田 美里・古里 貴士

参加人数 (子ども 62 名/保護者 41 名)

参加スタッフ 教員 7 名 学生延べ 62 名

<遊びや学生の様子・考察等>

運動会の季節の遊びとして親子で楽しむ「うんどうかいごっこ」を企画した。幼児は広い空間が大好きである。室内ではあるが広い体育館の中をおもいっきり走り回る機会を提供しようという思いであった。

プログラムとしては自由に走り回る遊びと親子で楽しむ競走の遊びを、さらにみんなで身体を動かす遊びのパターンで構成した。

・後期は一年生が加わり学生の数が増える。さらに二つのゼミが合同で企画するので細かい計画と周知が必要になるが、後期開始 2 週目の時期であるため学生同士のコミュニケーションも取れない時期に、一度のリハーサルでは其々の学生が描いているイメージをお互いに知り共通のイメージを共有するところまで進めることは当然ながら出来なかった。ただ企画者の伝達を聞き、最低限自分の担当する場所を確認するのみであり、不安を抱えたまま当日を迎えた。しかし、その分学生は必死に先輩の姿を見ながら臨機応変に対応し、子どもに寄り添うことが出来た。どんな環境でも学生が学ぶことが出来るのが、実践から学べる「あそびの森」の特長だと再確認した。

<プログラム>

- ・あいさつ・どうぶつたいそう
- ・ぼーるであそぶ・ごろりんごろりん・ぴょんぴょん・わにさんあさごはん・絵合わせ
- ・障害物リレー
- ・ぐるぐるどカーン



トンネルくぐってヨーイドン

活動名⑦「お話の世界を楽しもう」

実施日・会場

平成24年10月20日(土) 保育実習室
AM 10:00 ~ 11:45 PM 13:30 ~ 15:15

ねらい

- ・絵本やパネルシアター・エプロンシアターなどの話を子どもたちが楽しく聞いたり、お話の世界にひたったりできるようにプログラムを考える。
- ・子どもたちがお話を楽しめるように、表情をつけて演じたり、子どもが劇遊びに気軽に参加できるように工夫したりする。

担当 三羽 佐和子

参加人数 (子ども55名/保護者40名)

参加スタッフ 教員5名 学生35名

<内容>

- ・お面やペープサートを作って劇ごっこをする。
- ・絵本等の読み聞かせをする。

(えほんの森へ移動)

<遊びや学生の様子・考察等>

- ・劇ごっこ等では遊びの説明を受けてから、子どもたちはお面やペープサートを作り、自分の作ったものをかぶったり持ったりして、学生と共に歩いていた。
- ・遊びの内容は「七匹の子やぎ」「大きなかぶ」(共に劇)「はらぺこあおむし」(ペープサート)で学生の狼役を怖がったり、大きなかぶを仲間と共に引っ張り合ったり、きれいな蝶に喜んだりした。
- ・今回の活動が楽しかったようで、いつもは遊びに参加しない子も、お面をかぶったり、ペープサートをもったりして、自分の役になりきって遊んでいた。
- ・場所を、前半「あそびの森」保育実習室、後半図書館「えほんの森」と変えた。移動時間の問題や参加者が戸惑うかが心配で、事前に経路を調べ、図書館の担当職員と打ち合わせをしたので、参加者は戸惑うことなくスムーズに動くことができた。
- ・午前が終わった後、午後に向けての課題について話し合いを持った。その結果、午後は問題点が解決したようで、どのグループも戸惑いは少なかったようだ。また、指導案を立てて行っ

たことにより、特に2年生が流れをしっかりとつかみ、余裕を持って動くことができた。1年生は2年生が指導案を立てている姿を横目に見ていた。保育には教材研究や計画(指導案)、反省が大切なことを学生たちは学べたと思う。

活動名⑧「自然物で遊ぼう」

実施日・会場

平成13年11月10日(土) 保育実習室
AM 10:00 ~ 11:45 PM 13:30 ~ 15:15

ねらい

- ・秋の自然物に触れて遊ぶことで、自然への関心を高め、遊びに取り入れることの楽しさを知る。

担当 田中 ヒロ江

参加人数 (子ども59名/保護者46名)

参加スタッフ 教員5名 学生20名

<遊びや学生の様子・考察等>

- ・この回の企画は、3年生の9人という小人数であったが、幼稚園や保育所での実習の経験とあそびの森の企画・運営が3回目ということで、大変意欲を示し積極的な取り組みが出来た。
- まず、どんな遊びをするかという計画の段階から、いろいろなアイデアが出され、当日は5種類の遊びをコーナーに設置し、選んで遊んでもらうことにした。準備でも時間は少なかったが、自然物集めにも休日を使って充分揃え、作品を作ってみて指導のポイントを確認するなど、教材研究もしっかり行った。

中でも当日の環境構成として、受付を済ませた子から遊びに入れるような設定で、木の葉のプールや自然物の釣り遊びなどは、来た子から



まつぼっくりがいっぱい!

遊べるようにした。そして本番では「宝探し」と名付けて、ドングリに印を付けて忍ばせ、木の葉に十分触れて遊べるようにしたことは、保護者の方も関心して下さった。まつぼっくりの「みのむし」も、とても簡単にかわいらしく出来たので人気だった。体操や絵本の読み聞かせなども、子どもの様子を観ながら落ち着いて行うことが出来たと思う。

・反省としては、メインのスタッフが少なかった上にコーナーが多かったため、子どもの要求に手が回らないところや、できた作品を入れる袋を用意したが足りなくなってしまうが、反省を午後に生かすことができた。

・準備も片付けも大変だったが、保護者の方にも褒めていただけて、やり終えた学生は学びも多く満足できたと思う。



葉っぱのお風呂はふわふわだー

活動名⑨

㊦「毛糸を使ってフルーツのストラップ作り」

㊦子育て懇話会

実施日・会場

平成 24 年 12 月 1 日(土) 保育実習室

AM 10:00 ~ 11:45 PM 13:30 ~ 15:15

ねらい

- ・様々なものを作ったり、大型遊具で遊んだり
と自分の好きな遊びを楽しむ。(子ども)
- ・子どもたちの様子を見ながら、その子に合った支援ができる。(学生)

担当 長谷部 和子

参加人数 (子ども 75 名/保護者 47 名)

参加スタッフ 教員 6 名 学生 41 名

<内容>

・手遊び・体操(鬼のパンツ)

・大型パネル(桃太郎)

遊びのコーナー

・絵本読みコーナー

・紙粘土を利用した人形作り

・毛糸でフルーツのストラップ作り

・プチプチ遊び・折り紙遊び

・大型遊具でお姉さんたちと遊ぶ

<遊びや学生の様子・考察等>

・白いプラスチックのリリアンで毛糸を使いリングやミカン、メロンなど、子どもたちは好きなくだものストラップを作った。子どもだけの力では少し難しかったので、子ども一人一人に学生がつき、丁寧な指導や手伝いのお陰で、作り上げることができ、子どもたちはとても満足していた。

・親と別れることに不安を感じている子どもは時々懇話会の席へ連れて行き、安心をさせてまた遊びの場へ戻る等の配慮をしたので、比較的集中して遊びに参加をしていたようだ。

・体操・手遊び・大型パネル等は子どもたちが集中して取り組んでくれたので、学生も自信を持てたようだ。大型パネルは日頃あまり子どもたちが接する機会がないためか、珍しそうに見ていた。

・2年生が中心となってプログラムを進めたが、1年生も2年生を見習いながら、子どもとうまくかかわることができた。1年生にとっては初めての経験で、戸惑いもあったが、2年生というよいお手本があったので、自分から働きかけることができたようだ。

活動名⑩「クリスマス会」

実施日・会場

平成 24 年 12 月 15 日(土) 保育実習室

AM 10:00 ~ 11:45 PM 13:30 ~ 15:15

ねらい

「クリスマス会」への参加を通じて、楽しみながら冬の季節を感じとりつつ、さまざまな製作活動を通じて表現を豊かにすることを目指す。

担当 古里 貴士

参加人数 (子ども 73 名/保護者 52 名)

参加スタッフ 教員 4 名 学生 40 名

<遊びや学生の様子・考察等>

・「クリスマス会」は、午前・午後ともに、クリスマスの飾りづくりとツリーへの飾りつけを中心にした活動であった。

まずはエピカニクスで体を温め、それからクリスマスをテーマにした手遊びと絵本で子どもたちの意識をクリスマスに向けた後に、五つのブースに分かれて、クリスマスの飾りづくりを行った。製作した飾りは、会場に準備してあったクリスマスツリーに飾りつけを行った。飾りづくりの後は、参加者全員でばくだんゲームを行い、みんなで楽しい時間を過ごす機会を設けた。

・ブースでは、「紙コップブーツ」、「カラフルボール」、「紙皿サンタ」、「紙皿リース」、「折り紙の雪だるま」の製作を行ったが、これはいずれも身近にある材料で簡単に作ることができる飾りであった。これは、ここで製作したものを家に持ち帰ってもらい、また親子で製作してほしいという狙いがあったためである。

・参加した子どもたちは、保護者の方々や学生の助けを借りながら、思い思いの飾りを製作し、子どもたちの個性あふれる作品ができあがり、ツリーにもぎやかな装いとなった。学生たちも午前中の反省を午後に活かすよう、ゲームの進行の仕方に工夫を加えるなど、省察が求められる保育者としての経験をつむよい機会となった。



サンタさんと一緒に踊ろう

活動名⑩「粘土遊びでクッキー作り」

実施日・会場

平成 25 年 1 月 19 日(土) 給食経営管理実習室
AM 10:00 ~ 11:45 PM 13:30 ~ 15:15

ねらい

- ・親子でおやつ作りを体験し、楽しむ。
- ・子どもや親の想像力を高める。
- ・食べ物を大切にすることと、お菓子に対する意識を高める。

担当 若杉 雅夫

参加人数 (子ども 80 名/保護者 53 名)

参加スタッフ 教員 5 名 学生 42 名

<遊びや学生の様子・考察等>

今回も食健康栄養学科の協力を得、給食経営管理実習室を活動の場として実施しました。

※ (平成 17 年度から連続 9 年実施)



クッキーの生地作り

・プログラム内容は、親子で一緒に楽しむ手作りおやつ作りです。一つのテーブルに 1~2 組の家族がつき、クッキーの生地作り、形作り、わくわくする焼き上がりを楽しみました。

・形作りでは、生地を粘土に見立て色々な自分だけのオリジナルクッキーをたくさん作りました。アンパンマンやバイキンマン・お父さんの顔・豚や犬・びっくりするような大きなお好み焼きのような形、などなど、子どもの想像力の豊かさには驚くばかりでした。お子さんに負けずお父さんやお母さんも張り切って、オリジナルクッキー作りに没頭されていました。

・短期大学部幼児教育コースの学生も子ども発達学科の学生と協力して、クッキー作りの支援を行いました。その体験の中で、学生は支援する難しさと楽しさ、人との関わりの温かさなど色々なことを学びました。

活動名⑫「からだを使って遊ぼう」

実施日・会場

平成 25 年 2 月 9 日(土) 保育実習室
AM 10:00 ~ 11:45 PM 13:30 ~ 15:15

ねらい

・外遊びが少ない時期に、思い切り体を使って遊べるように工夫し、学生と親子が共に楽しむ。

担当 高山 育子 田中ヒロ江 杉山 章

参加人数 (子ども 57 名/保護者 43 名)

参加スタッフ 教員 6 名 学生 28 名

<遊びや学生の様子・考察等>

今回は、2 回目の企画・運営になり、1 回目の経験話し合うことから始め、良い方向に生かそうという思いから、力が入っていたように感じた。

そのため、小道具作りに時間をかけて大きな物を作ったり、思い入れの強さから学生同士の意見の対立もあった。

結果を見ると、責任者や担当を決めてみんなの意見を出し合い、話し合いの回数も多くしながら進めていたが、すごく頑張る学生と後から付いて行く学生の差があったように感じた。それでも、協力体制はよく、出来あがった玉入れのための道具などはとてもユニークな物ができた。しかし、部屋の中で動き回るのはちょっと大き過ぎたり、穴に玉を投げ入れる遊びでは、穴の大きさの調整が難しく、工夫しながら遊ぶ姿もあり、子どもや部屋の実態に合った準備が課題となった。

しかし、「からだを使って遊ぶ」というねらいに向けて、部屋全体を使って動きを大きくす



たくさん玉を入れるよ

るための配慮ができたり、体操などでは、保護者の方も誘い、学生が盛り上げながらみんなで楽しむこともできたと思う。

また、実習の経験なども生かして、前に立っての話し方にも神経を使い、短い時間にペープサートを作ったり、最後のお別れに折り紙のプレゼントを渡すなど、できることを精一杯やろうとしている気持ちが伝わってきた。

学生にとって実践の場があるということは、学びの積み上げができて、実践力を付けるためのよい勉強ができていていると思う。

平成 24 年度「あそびの森」運営の記録

◇運営

(短大部)

若杉 雅夫 三羽佐和子 長谷部和子
篠田 美里 杉山喜美恵 古里 貴士

(四大)

大西 信行 田中ヒロ江 高山 育子

◇事務担当

(短大部) 三羽佐和子

(四大) 杉山 章

◇全プログラムの親子の名札作成・写真撮影

松尾 良克

◇出席カードの製作及び室内装飾

若杉ゼミ生

<執筆担当>

若杉 雅夫 プログラム③⑪

三羽佐和子 プログラム①⑦⑨

子育て懇話会

実践の概要

篠田 美里 プログラム⑤⑥

杉山喜美恵 プログラム④

古里 貴士 プログラム⑩

田中ヒロ江 プログラム②⑧⑫

平成 24 年度 あそびの森参加者数

No	開催日 (プログラム)	参加者数				
		組	子ども	親(母・父・他)	園 施設	合計
【月例プログラム】						
①	5/26 (スライムで感触遊び)	52	91	56 (51・5)		147
②	6/16 (つくって遊ぼう・子育て懇話会)	43	74	46 (43・3)		120
③	7/7 (私だけのアンブレラ)	47	76	49 (43・6)		125
④	7/21 (お気に入りの一冊を)	54	83	56 (54・1・1)		139
⑤	8/18 (子どもおんがくかい)	63	110	70 (63・7)		180
⑥	10/6 (うんどうかいごっこ)	38	62	41 (38・3)		103
⑦	10/20 (お話の世界を楽しもう)	37	55	40 (35・5)		95
⑧	11/10 (自然物で遊ぼう)	43	59	46 (43・3)		105
⑨	12/1 (ストラップ作り・懇話会)	44	75	47 (44・3)		122
⑩	1/24 (クリスマス会)	48	73	52 (48・3・1)		125
⑪	2/14 (クッキー作り)	48	80	53 (47・6)		133
⑫	2/9 (からだを使って遊ぼう)	39	57	43 (36・5・2)		100
	合計	556	895	599(545・50・4)		1494
①	全 回 (ペープサートを観る会)		615	32	32	647
②	出張あそびの森	200	204	235 (202)	33	439
③	子育てを考える講座(第4ブロック)	49	49	52(49)	3	101
	合計	249	868	319(251)	68	1187
	総合計	805	1763	918(796・50・4)	68	2681

平成 24 年度 参加者数 子ども 1,763 名 / 保護者・園や施設指導者 918 名 (805 組)

総合計 2,681 名

平成24年度 「あそびの森」プログラム

場所：東海学院大学西キャンパス 7号館5階 「あそびの森」の部屋

<前期プログラム> 時間 AM10時～11時45分 PM1時30分～3時15分

No	開催日	あそび	どんなことをするの？
1	5月26日	スライムなどで感触あそびを楽しもう	スライムや小麦粉粘土を丸めたり、のぼしたり、ちぎったりなどしながら、ベタベタ、さらさら、つるつる等を感じて遊びましょう。汚れても良い服装で。タオルも持ってきてね。
2	6月16日	⑦ つくって遊ぼう ⑧ 子育て懇話会	買ったおもちゃも楽しいけれど、お兄さんやお姉さんと一緒に作った物で遊ぶのもうれしいね。さあ！何をつくって遊ぼうかな。楽しみに来てください。保護者は子育てについて、専門の先生を交えて楽しく語り合しましょう。
3	7月7日	私だけのアンブレラ	透明なビニール傘に、油性ペンで楽しいお絵かきをします。世界でひとつだけのオリジナル傘を作ってみましょう。 ※傘一本につき100円必要です。申し込み時に必要な本数をご記入ください。(参加者は他のプログラム同様抽選で決めます。)
4	7月21日	お気に入りの一冊を見つけよう！	絵本の読み聞かせは何故必要なのか、どのようにすればいいのかなど、保護者の方へのお話を交えながら親子で絵本を楽しみましょう。(えほんの森で行います。)
5	8月18日	こどもおんがくかい	本物の楽器の演奏を聴きましょう。そしてみんなで一緒に歌いましょう。あなたの好きな曲が出てくるかな？(午前のみ 131 室)
6	10月6日	うんどうかいごっこ	跳んだり、歩いたり、走ったり、みんなで「うんどうかいごっこ」をして遊びましょう。どんな仕掛けがあるのかな？

<後期プログラム> 時間 AM10時～11時45分 PM1時30分～3時15分

7	10月20日	お話の世界を楽しもう	「えほんの森」の部屋へ行って、絵本を見たり、お姉さんお兄さんに読んでもらったり、エプロンシアターを見たり等、お話の世界をいっぱい楽しみましょう。大好きなお話に出会えるといいね。
8	11月10日	自然物で遊ぼう	野に山に道端に、秋にはどんな物が見つかるでしょうか。自然物は、触れて、感じて、考えて、感性や思考力が育ちます。それには、周りの大人がその楽しさや価値を知ること大切です。一緒に楽しみましょう。
9	12月1日	⑦ 毛糸使ってフルーツストラップ作り ⑧ 子育て懇話会	お姉さんお兄さんと一緒に極太毛糸を使って、果物の携帯ストラップを作りましょう。その後、お姉さんお兄さんと一緒に体を使ったゲームをしながら遊びましょう。保護者は懇話会に参加です。(材料費代1家族200円)
10	12月15日	クリスマス会	身の回りにある簡単な材料で飾りを作ってきれいにツリーの飾りつけをします。また、クリスマスのお話を聞いたり、歌を歌ったりして、みんなでクリスマス会を楽しみましょう。
11	1月19日	粘土遊びでクッキー作り	慣例のおいしいクッキーを作ろう。小麦粉を粘土に見たてて、色々な形を作って、クッキー作りを楽しみます。材料費として1家族200円、エプロン、バンダナ(三角巾)を持ってきてね。
12	2月9日	からだを使って遊ぼう	成長盛りの子どもたちは動くことが大好きです。でも寒くて家の中で遊ぶことが多くなり、心も体も欲求不満になりがちな時期ですね。お兄さんお姉さんと一緒に元気いっぱい遊びましょう。
	11～1月 金曜午前	ペープサート劇を観る会	幼稚園、保育所団体別鑑賞会(団体のみ) 団体鑑賞については相談に応じます。(出張可)

※ 当日のプログラムと多少変更がある場合があります。